



科学委員会



- 6月7日（金） 第1回会議
- 9月4日（水） 第2回会議
- 3月5日（水） 第3回会議

ヒグマ
ワーキンググループ



- 8月6日（火） 第1回会議
- 12月19日（木） 第2回会議

エゾシカ
ワーキンググループ



- 6月25日（火） 第1回会議
- 11月22日（金） 第2回会議

適正利用・
エコツーリズム検討会議



- 6月21日（金） 第1回会議
- 2月20日（木） 第2回会議



敷田麻実 委員

北陸先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科教授

2010年より科学委員会委員、
適正利用・エコツーリズム検討
会議座長として主に観光分野で
ご活躍。2024年度末退任。

退任のご挨拶

ありがとうございました!



私の知床世界自然遺産とおつきあいは、15年前に遡ります。それまではほとんど知床とご縁がありませんでした。しかし2010年に6月から「エコツーリズムワーキンググループ」の座長として、遺産地域の観光を地元経済や社会と調和させていく試みに取り組むことになりました。それはIUCNの勧告によって求められた専門家としての私のミッションでした。それに忠実に従って仕事をしてきたのがこの15年です。

中でも大きな役割は、地域の観光関係者と保全関係者、遺産管理者が一堂に会する「エコツーリズム検討会議」の運営でした。そこで目指したことは、国の省庁が主導している遺産管理への、地域の皆さんの「再参加」です。知床世界自然遺産の維持や管理を地域の手に取りもどすことが私にとっての密かな使命でした。

今回、退職を機にこの役割を終えることになりました。地域に主体性を取り戻せたのかと問われると答えに窮します。しかし1つの役目が終わった私に代わり、新しい時代がやってくるとしますので、躊躇せず席を離れます。

15年間お付き合いした皆様との密な関係が失われるのは残念ですが、知床の新しいページが始まるとお考えください。知床世界遺産の本当の資産、価値の源泉は皆様のかかわりです。

■制作・発行 環境省釧路自然環境事務所 〒085-8639 北海道釧路市幸町10-3 釧路地方合同庁舎4階 TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

■発行日 2025年3月

表紙 知床岬のエゾシカ

news letter

知床世界自然遺産地域 科学委員会しんぶん 2024



科学委員会 - 気候変動への適応についての対策を進めています

エゾシカWG - エゾシカが再び増加傾向に

ヒグマWG - 岐路にたつヒグマ対策

適正利用・エコツーリズム検討会議 - 知床の価値共有へ

このニュースレターは、知床世界自然遺産地域の取り組みを地域のみなさんにお伝えすることを目的に環境省が発行しているものです。



会議の内容や調査結果をもっと知りたい方はコチラ
<https://shiretokodata-center.env.go.jp/>

こんにちは 科学委員会です！

知床の貴重な自然をより良い状態で守っていくために、「科学委員会」という組織が活動しています。この委員会は、自然環境の専門家や行政機関の担当者が集まり、知床の環境を調査し、より良い管理方法について管理機関や地域に助言する場として20年以上活動しています。

科学委員会では、知床の自然環境の変化を調べる「モニタリング」や、世界遺産地域を守るために必要な対策について議論を行っています。また、科学委員会（本体）のほかに、より詳しいテーマごとに専門のグループ（ワーキンググループ）を設けており、それぞれ年に2回ほど話し合いを行っています（図1）。

このニュースレターでは、地域の皆さんや知床に関心のある方々に向けて、科学委員会や各グループの活動状況、話し合われた内容をお知らせしていきます！

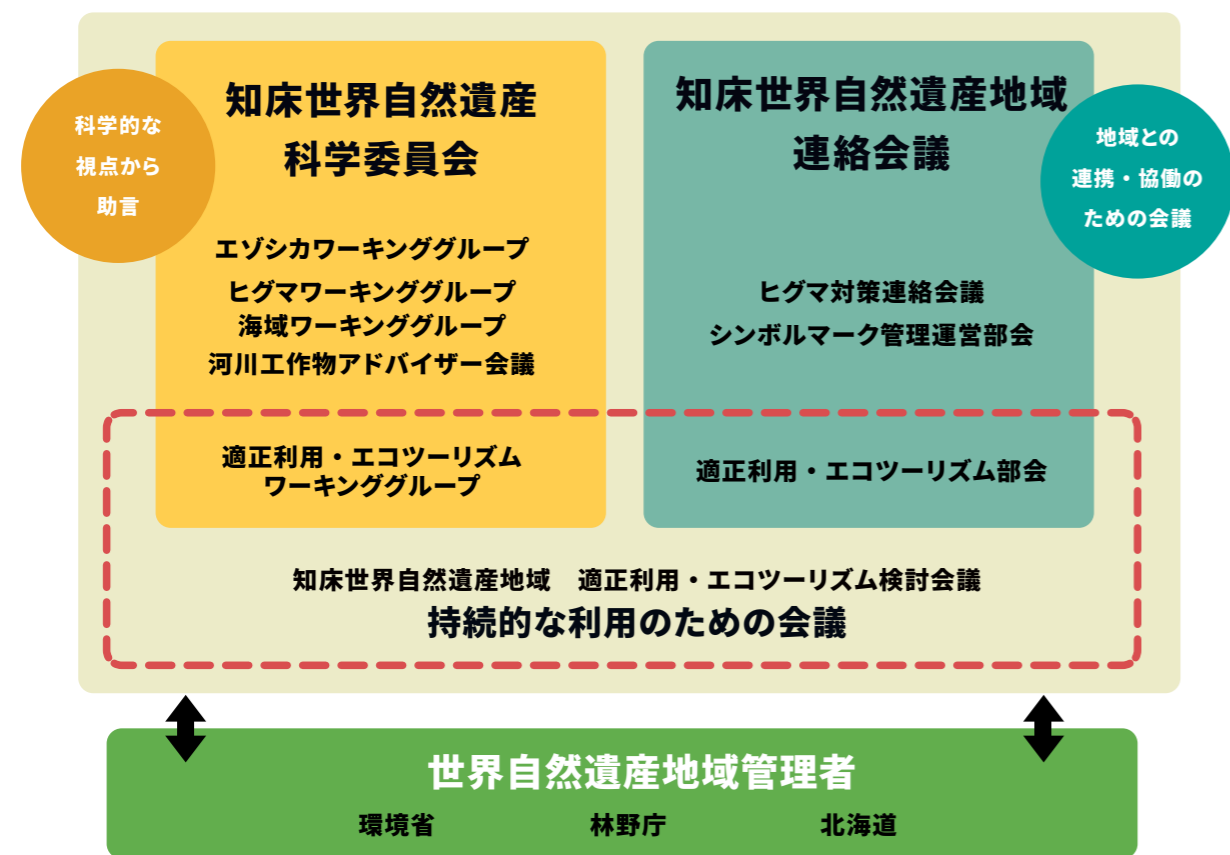


図1. 知床世界自然遺産の管理の仕組み



知床を代表する哺乳類ヒグマ



会議の様子

TOPIC 1

ユネスコへ保全状況報告書を提出！



かがくまげら君

世界遺産の新規登録や、すでに登録されている遺産の保全状況を確認するため、「世界遺産委員会」という会議が毎年開かれています。2023年9月に開かれた第45回世界遺産委員会では、知床について6つの課題が指摘され、対応についての報告が求められました。この報告を作成するため、科学委員会や専門家による会議で議論を重ね、2024年11月にユネスコへ正式な報告書を提出しました。

主な対応 気候変動への対策をしてください

知床の自然環境にも影響を及ぼす気候変動に対応するため、具体的な対策をまとめた「気候変動に係る順応的管理戦略」を策定しました。生物への気候変動の影響を観察しながら、生態系を維持していくための対策を進めていきます。



主な対応 トドの保護と漁業との両立が重要です

漁業被害を防ぎながら、トドを保全するために、2024年に管理方針が改定されました。新たな方針のもと、科学的なデータに基づき、絶滅の危険性のない範囲内で適切に管理していきます。



TOPIC 2

知床は国立公園指定60周年・世界遺産登録20周年を迎えます

2024年は知床国立公園の指定から60周年、そして2025年7月には世界自然遺産に登録されて20周年という大きな節目を迎えます！

これを記念し、環境省・林野庁・北海道、そして斜里町・羅臼町が実行委員会を立ち上げ、さまざまな記念イベントを企画しています。テーマは「海と、森と、人がつなぐ。」で、周年記念のロゴマークも作成しました。



2024年の主なイベント

- 5月：東京の新宿御苑で開催した「メディア向けフォーラム」で記念事業をスタート
- 6月：「知床国立公園指定60周年記念シンポジウム」を開催
- 9月：「SHIRETOKO Adventure Festival 2024」で知床の魅力を発信

2025年も、世界遺産登録20周年を祝うイベントを予定しています！知床の自然と文化を未来へつなぐこの機会、ぜひご注目ください。



SHIRETOKO Adventure Festival 2024の様子

TOPIC
1

気候変動に係る順応的管理戦略を策定しました

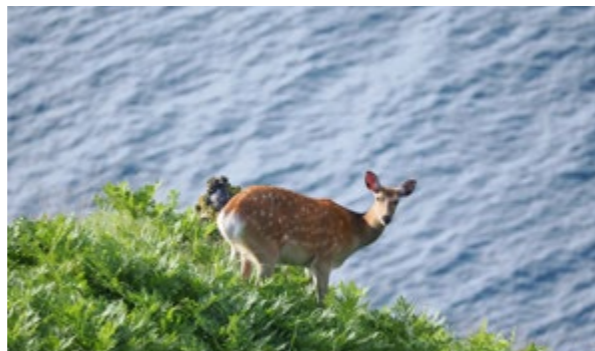
知床は、北半球で流氷が到達する最南端の地域とされ、流氷が運ぶ栄養分が、知床の豊かな生態系を支えています。その価値が評価され、世界自然遺産に登録されました。しかし、地球規模での気候変動の影響により、気温の上昇や流氷の減少が生じており、生態系や自然環境への影響が懸念されています。

この課題に対応するため、環境省、林野庁、北海道などの関係機関は科学委員会の助言を得ながら「気候変動に係る順応的管理戦略」を策定しました。この戦略は、気候変動がもたらす生態系への影響を予測した上で、その影響を和らげたり、変化した気候に適応するための対策を整理したものです。当面は、動植物の調査を継続し、生息状況などに変化があった場合に、この戦略をもとに、原因が気候変動によるものか分析し必要な対策をとっていきます。日本の他の世界自然遺産地域に先駆けて知床で初めて策定されました。

地球規模の問題を根本から解決するのは難しいかもしれませんが、世界遺産として価値が認められた知床の自然を少しでも良い状態で維持するため、地域の皆さんとも協力し、知床の豊かな自然を未来へ引き継いでいきます。



もっとも気候変動の影響が懸念されるのが流氷

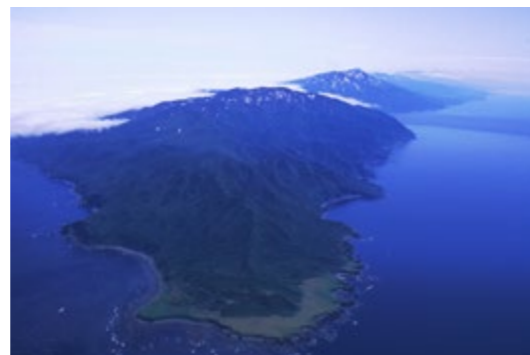


気候変動は動植物の生息環境にも影響を及ぼす可能性があるか

TOPIC
2

知床半島の通信環境整備について

知床半島では、携帯電話の不感地帯の解消を目的とした通信環境の改善が進められています。この取組の中でも知床岬及びニカリウスにおける携帯電話基地局の整備計画について、令和6年6月の科学委員会において知床世界自然遺産地域の顕著で普遍的な価値（OUV）に与える影響について検討し、「環境及び生態系調査が不十分であり、OUVへの影響を判断することはできない。このため、工事を一時中断して、調査を実施し、改めて影響を評価すべき」との助言を行いました。これを受け、令和7年3月の科学委員会では、事業者より自然環境調査の計画概要が示され、今後、ニカリウスにおいてOUVへの影響を判断するための調査が実施される予定です。



知床半島先端部地区

TOPIC
1

ヒグマとのトラブルを減らすために

近年、全国的にクマの出没や被害が増えています。この状況を受け、今年度環境省はクマを特別に管理が必要な動物として、新たに「指定管理鳥獣」に加えました。

北海道でも、ヒグマの管理方針を見直し、ヒグマの存続を認めながらも「人とヒグマのあつれきを減らすために、ヒグマの数を調整する」新たな方法を検討しています。知床半島（斜里町・羅臼町・標津町）では、ここ数年、ヒグマの目撃件数が毎年1,000件を超えています。もしヒグマの数がさらに増えれば、これまでの方法では対応しきれなくなり、住民の生活や観光客の安全を守ることが難しくなる可能性があります。

そのような状況を踏まえ、地元自治体や専門家が話し合い、知床のヒグマ管理計画を見直すことになりました。今後は、必要に応じてヒグマの数を調整する対策も検討される予定です。これまでヒグマとの共存を目指してきた努力も生かしながら、地域住民や観光客の安全も守れるよう、知床ならではの管理のあり方を模索していきます。

TOPIC
2

国立公園内のヒグマ対策 ～ある川を一例として～

知床五湖へ向かう道沿いのある川では、秋になると川を遡上するサケ・マスを求めるヒグマを観察することができます。国立公園の中でヒグマと出くわす機会があるのは、まさに「知床らしい体験」です。この川沿いにはクマを見ようとする人たちが集まり、カメラを構えた方々が道端に並ぶ様子は、すっかりおなじみの光景になってしまいました。このようにクマを観察・撮影するために渋滞が発生する状況は、実は20年以上変わっていません。しかし、人とクマの距離が近すぎると、クマの行動に影響を与えたり、万が一の事故につながる可能性が高くなります。その間、電気柵の設置やクマの追い払い、クマに接近する人への注意や危険に関する注意喚起など、さまざまな対策を行いました。決定的な解決策は見つかっていませんでした。

そんな中、2023年に改正自然公園法が施行され、ヒグマへの過度な接近を禁止する新しいルールが加わりました。その結果、パトロール時に説明をすると、多くの方が理解し、その場を離れてくださるようになりました。

しかし、一部の方はスタッフがなくなるとまた元の場所に戻り、同じようにクマ見物を続けています。その結果、今年の秋も上記のような光景がなくなることはありませんでした。この問題を根本的に解決するために、様々な専門分野で連携してより効果的な対策を考えていきます。



川沿いの「ヒグマ渋滞」と降車してヒグマを見ようとする人々



啓発チラシ



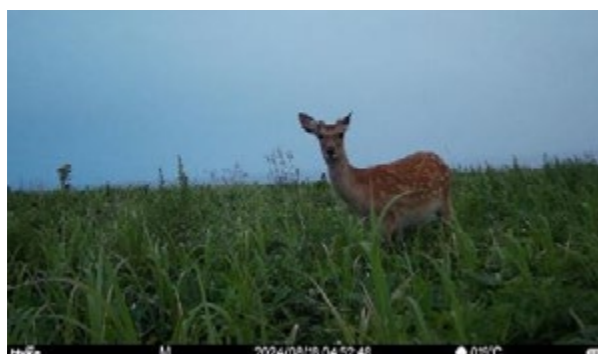
TOPIC 1 知床岬地区のエゾシカの状況

知床半島では、「エゾシカが増えすぎることによる植物などの自然に与える影響を減らす」ための対策が進められています。その一環として、2007年から知床岬周辺でエゾシカの数調整の取り組みを続けており、これまでに約1,000頭を捕獲しました。

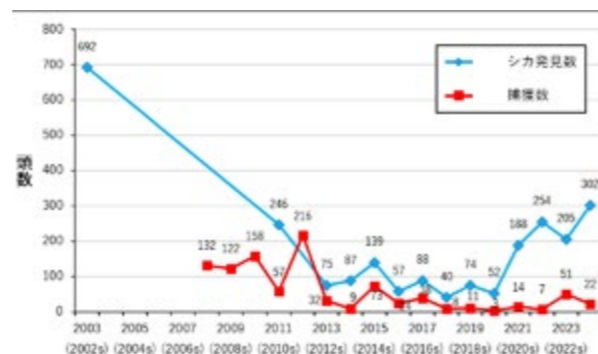
この対策の効果もあり、一時はシカの数減りました。しかし、2017年以降は捕獲数が減り、最近の調査では再びシカが増えていることがわかりました（下図右側）。

エゾシカが増えすぎると、草や木を食べ尽くしてしまい、本来の知床の植生が失われてしまいます。これまでの管理で、知床岬の一部では植物が回復してきましたが、再びシカが増えつつあるため、今後の状況を注意深く見守る必要があります。

知床の豊かな自然を守るため、引き続きエゾシカ対策を進めていきます。



自動撮影カメラによって撮影されたシカの様子



知床岬におけるシカ発見頭数及び捕獲数の推移

TOPIC 2 知床岬地区のエゾシカ WG 現地視察

2024年6月、シカ対策の専門家や行政関係者21名が、知床岬周辺の現地視察を行いました。この地域では近年シカの数が増えており、今後の管理方針が大きな課題となっています。

今回の視察では、専門家が実際の現場を見て、会議の資料だけでは分からない状況を確認しました。その後の会議では、以下のような対策が提案されました。

▶シカの捕獲を効率よく進めるための方法

捕獲の補助として設置されている柵を改良することや、以前行われていた冬季の捕獲を再開することの必要性が指摘されました。

▶シカの動きや生息数を正確に把握する調査

これまで、上空からのカウント調査によってシカが最も集中する越冬期の生息状況を把握してきましたが、自動カメラを活用して、植物の生育期を含めて一年を通してシカの行動を詳しく調べることができるようになってきています。

知床岬でのシカ対策は、まもなく開始から20年を迎えます。これまでの成果をふまえながら、今後もより効果的な取り組みを進めていきます。



知床岬地区の草原で確認されたシカの群れ (2024年3月)

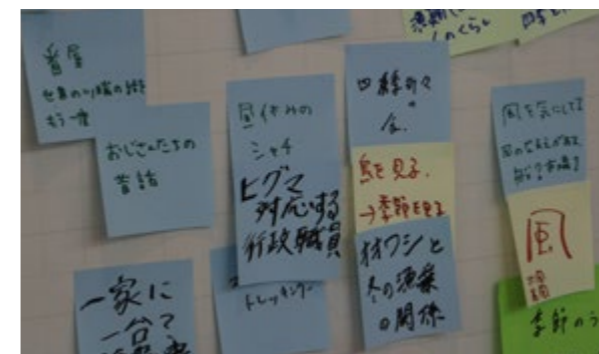
TOPIC 1 知床の価値共有へ

～知床インタープリテーション全体計画の作成が始まりました！～

環境省では、国立公園をより多くの人にとってもらうための取り組みを進めています。その一環として、知床では「知床の魅力をどのようにわかりやすく来訪者に伝えるか」を考える計画（インタープリテーション全体計画）を作っています。

この計画では、知床の自然や文化の大切さを「いつ・どこで・誰が・どのように伝えるか」を整理し、地域全体で共有することを目指しています。簡単に言うと、「知床のすばらしさを、みんなで分かりやすく伝えよう!」という取り組みです。計画づくりは2年間の予定で、来年度の完成を目指しています。今年度は、ウトロ・斜里・羅臼の3つの地域で、合計9回のワークショップを行いました。参加者の皆さんから、地域ごとのさまざまなアイデアや意見が出されました。

今後は、これらのご意見を整理し、さらに計画の作成を進めていきます。進捗については、またお知らせしますので、ぜひ楽しみにしてください！



ワークショップの様子@羅臼会場



グループワークに取り組む地域住民の様子

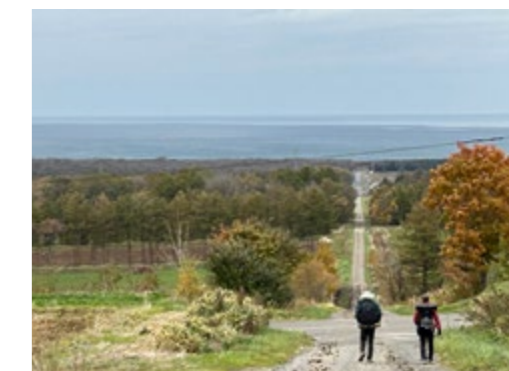
TOPIC 2 北海道東トレイルが開通しました！

2024年10月5日、「北海道東トレイル」が開通しました！釧路と羅臼を結ぶ約410kmの歩くための道（ロングトレイル）で、知床国立公園・阿寒摩周国立公園・釧路湿原国立公園の3つの国立公園をめぐるのが大きな特徴です。

トレイルは、海沿い、畑、カルデラ、酪農地帯、湿原、森と、さまざまな景色の中を歩きながら道東の自然を満喫することができる魅力的なルートになっています。

また、トレイルのロゴマークも決まり、専用のWEBサイト (<https://dototrail.org/trail-charter/>) も公開されました。このサイトでは、ルートマップやアクセス方法、注意事項、地域の観光情報などを紹介しています。

ロングトレイルは自然豊かな地域を楽しむためのコンテンツとして非常に注目が高まっており、今後は国内外から多くの方に訪れていただけることを期待しています。ぜひ、東北海道の大自然を感じながらトレイルを楽しんでください！



トレイルを歩くハイカーの様子